

[グローバルビジョンワークショップ報告]

要約

- グローバルビジョンの検討作業を通じて、教育/スポーツ/文化それぞれのグローバル化の現状とチャレンジが明確化
 - 教育は、グローバル化の余地は大きく、その取り組みも進展しつつあるが、主眼は国内政策
 - スポーツは、その国際性から最もグローバル化が進展
 - 文化は、概念・範囲が広域であり、グローバル化に向けた施策の具体化が必要

- 各テーマのグローバルビジョン
 - 教育は、「High Quality Education for All」を目標に、人材育成・教育ソフトインフラの輸出まで見据えた国際貢献を推進
 - スポーツは、「スポーツの力」を目標に、日本の強み・課題克服実績を世界に展開
 - 文化は、最大の資産である「文化力」を世界に発信し、国内外の産業や暮らしの発展に貢献

現状とグローバル化に向けたチャレンジ

(加治文部科学省参与らによる現状分析とチャレンジの対比)

現状

チャレンジ

教育

グローバル化に着手

- ・ 省内に関連する局・課が多いテーマ
- ・ 近年はグローバル化に対する意識が高まり、関連施策も飛躍的に増加
- ・ インフラ輸出・人材育成等、更なるグローバル化に向けた**発展余地は大きい**



省内におけるグローバル意識の統合

- ・ 各局に分散する取り組みの有機的連携
- ・ 初等中等、高等教育、科学技術を包括したグローバル関連政策の方針を策定し、取り組みを進化
- ・ 単なる国際貢献ではなく、戦略的視座を高める

スポーツ

グローバル化が進展

- ・ 単一局内で収まるテーマ
- ・ 五輪招致や国際大会の主催・参加を通じて、グローバル化が最も進展
- ・ 他テーマに比べ、グローバル化に対する**施策も豊富であり、予算割合も高い**



更なるグローバルプレゼンスの向上

- ・ 国際的なスポーツコミュニティにおける貢献
- ・ “スポーツの力”“道”“Integrity”を切り口とした新しいスポーツのあり方を提示
- ・ 結果として、スポーツツーリズムにも貢献

文化

グローバル化の視点が醸成

- ・ 他省庁との棲み分けと連携がテーマ
- ・ 国内向けの施策が中心であったが、徐々にグローバル化に対する意識が萌芽
- ・ グローバル化に向けた文化庁行政の**関与度の検討が最優先事項**



あるべき取り組み方針の明確化

- ・ 「文化力」を活かしたAll Japan戦略の立案
- ・ 国際交流基金等、関係機関との連携を深め、文化庁が日本文化の総合的な振興を図る責任を担う。
- ・ 対応できる人材・組織力の強化

グローバル化の現状理解

教育

教育条件整備と課題解決人材の育成の必要性

- 今後の経済発展を目指すアジア・アフリカ諸国等において、教育条件整備への需要が増大
- 世界的には環境問題・少子高齢化・情報化・グローバル化などに伴う新たな課題が浮上
- こうした課題の解決が求められる中、教育は、知識量だけでなく、個々人が自らの考えを持ち、発信し、主体的に課題を解決力を養うことが重要。
- 欧米・アジアなど各国・地域は、それぞれの社会的経済的課題の中で、質の高い人材の量的な育成と確保のため、国を越えた戦略的な取組を展開。我が国がそうした流れから孤立せず、むしろ積極的な提唱と実践を行いプレゼンス向上を図るべき。

スポーツ

2020年を契機に、日本らしさによるアピールの必要性

- 2020年にオリンピック・パラリンピックをひかえ、日本がショーケースとして注目を浴びる、日本の第二の“開国”
- 日本特有の「道」の精神：勝ち負けをこえた、人間力の醸成としてのスポーツ
- 急激な少子高齢化を迎える日本社会、社会保障費の増大と生産年齢人口の縮小

文化

日本人による日本文化の理解を促し、成熟社会へ貢献するモデル提示の必要性

- 多様な価値観、文化を包含している深みのある日本文化は、世界に大きく貢献する力を有する
- 実際、文化力で地域の課題の解決につなげたり、震災復興に大きく寄与したケースもあり
- こうした日本の文化力で、先進国共通の課題解決の提示、「成熟社会」における豊かな人の生き方のモデルの提示が可能
- しかし、日本人自身が日本の文化力の凄みを十分に理解していない
- 日本文化の総合的な振興を図る責任を担い、日本文化の認知度を高め、省庁横断で世界発信する

教育・文化・スポーツのグローバル政策の強化により、 世界の平和・持続的発展をリードする国家としての位置を確立する

教育

High Quality Education for All

- 我が国の教育が、高度な水準と柔軟な人的流動性を備え、世界にオープンな存在となる
- 世界の誰もが、何歳になっても、各人にもっとも最適な方法で、興味・必要性に応じて学習
- あらゆる国との互恵的な教育交流を通じ、国際社会の平和・持続可能性・経済発展に貢献

スポーツ

「スポーツの力」の追求と国際社会への貢献:スポーツで世界のメッカに

- 少子高齢社会克服の日本版モデルを世界に提示
- 世界からのスポーツ観光客を誘致（観光客3000万人のうち、スポーツ観光客500万人を達成）

文化

「我が国の最大の資産である「文化力」を世界に発信し、人々の豊かな生き方を創出 :21世紀の文明開化

- 日本文化ファンを世界に増やし、日本ブランドの認知度を高め、市場を創造
- 文化の力で地方から日本再生を成し遂げ、世界に発信
- 文化力で社会課題と向き合い、課題解決先進国としての模範を提示

戦略的 狙い

- (教育) 国際的に高い評価を得ている教育・文化の信頼性を活かし、教育の国際交流・貢献を積極的に打ち出す
- 国際貢献を通じて親日層の拡大を図ると同時に、世界的な教育のスタンダード構築を日本がリードできる国際環境の醸成や、我が国が強みを有する産業の国際発展の基盤整備につなげる
- 併せて、こうした国際交流・貢献の成果を、グローバル人材育成など国内の様々な改革課題の進展と解決に具体的に活かす
- (スポーツ) スポーツを通じた健康寿命の長期化による社会保障費の削減、および新たな消費の拡大を目指す
- 2020年に世界の注目を集める機会を活かした日本の魅力発信とインバウンドの増加、およびスポーツ産業を振興する
- また、スポーツ外交を通じた、グローバルプレゼンス拡大
- (文化) 文化庁は、日本文化の総合的な振興を図る責任を担い、省庁横断的かつ対象国・地域に応じた文化力を源泉とする国家戦略を構築
- 文化力により地域を創造し、各地域の多様な創造産業を世界へ発信
- 文化力で成熟社会の豊かな生活モデルを提示

グローバルビジョンの具体化に向けたアクション:教育

教育

スポーツ

文化

鍵になる取り組み		最新の国際動向を踏まえた教育・科学技術・文化・スポーツの国際戦略を持つ	戦略的な交流展開(積極的な交流・貢献策を提示する)	グローバルに立ち向かえる人材育成のための教育改革
短期	今年度	<ul style="list-style-type: none"> 最新の国際動向についてアドバイスをお願いできる方の人的ネットワーク(他省庁・民間・在外公館・メディア・大学等様々なセクターから)を組織として持つ。2014国際戦略へのインプット。 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトインフラとして“輸出”可能な教育の定義と洗出し(学校管理運営、教員養成・研修、学習指導要領、給食、部活、公民館、持続可能な開発のための教育、高専制度等) 民間教育事業者と意見交換等 	<ul style="list-style-type: none"> 海外に誇る高品質・柔軟な教育改革の提示(学習者及び教員等人的流動性の格段の向上及び大学等の質保証制度の国際連携)
	来年度	<ul style="list-style-type: none"> 2015国際戦略へのインプット 	<ul style="list-style-type: none"> 官民協働教育システム輸出パイロットプロジェクトの企画立案 OECDと共同で課題解決型能力の育成を図る新しい教育モデル開発 	<ul style="list-style-type: none"> 長期学外学修プログラム(海外ボランティア等)の導入 意欲と能力の高い教員の海外派遣、外国人教員の常勤講師としての招聘 スーパーグローバルハイスクール、スーパーグローバル大学の積極的拡大、SGUをモデルとした大学の徹底した国際化
中期	<ul style="list-style-type: none"> 組織として国際戦略の人脈を維持・向上させ、国際関係業務の質的・量的向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> パイロットプロジェクトの発展 高専制度の輸出 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の多くの人に「日本で学びたい」と思ってもらえる仕組みづくり 	
長期		<ul style="list-style-type: none"> ODAベースもの及び産学連携もの両方のモデル確立 	<ul style="list-style-type: none"> 日本で学んだ人々が世界の各地・各分野で活躍 	

グローバルビジョンの具体化に向けたアクション: スポーツ

教育

スポーツ

文化

*「スポーツの高潔性」・フェアプレイ、ルール遵守、参加者へのレスpekt、連帯意識等スポーツそれ自体が内包する高い価値

鍵になる取り組み		スポーツのメッカとしての日本、をつくりあげる	日本発「Integrity of Sports*」の追求 ートップダウン・ボトムアップの両面戦略ー	スポーツを通じた健康日本スタイルの世界普及
短期	今年度	<ul style="list-style-type: none"> 「スポーツ外交強化に関する有識者会議」の議論を踏まえた政策棚卸し Sports for tomorrowの力強い推進 <ul style="list-style-type: none"> 学校体育カリキュラムの輸出 グローバルスポーツリーダー育成のためのアカデミー設立 	<ul style="list-style-type: none"> ASEAN諸国へのアンチ・ドーピングの教育パッケージの作成・普及 世界アンチドーピング機構/WHOと世界の主要リーダーを招いてシンポジウムを開催 	<ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブの拡大 「スポーツによる健康長寿運動」(仮称)の実証研究
	来年度	<ul style="list-style-type: none"> IF役員倍増戦略の展開 ラグビーワールドカップ2015イングランド大会での「ジャパンプレゼンテーション事業」の展開 Sports for tomorrowの事業展開 	<ul style="list-style-type: none"> アンチ・ドーピングの南米への普及 途上国におけるIntegrity of Sportsの普及モデル事業の開発 世界からオリンピックを招き、日本全国でアスリートフォーラム・セミナーを開催 	<ul style="list-style-type: none"> 「スポーツによる健康長寿運動」のモデル開発など、スポーツ参加促進プロジェクトの実施 スポーツ参加促進に関する官民連携体制の確立(地域スポーツコミッション等)
中期		<ul style="list-style-type: none"> 2020年のオリンピック・パラリンピックの成功 スポーツ文化(種目等)の保存による多様性の維持 国体スキームの輸出 	<ul style="list-style-type: none"> 最先端のアンチ・ドーピング体制の整備 国際組織における主導的地位の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> 「スポーツによる健康長寿運動」関連商品・サービスの国際認証制度の確立 シニアマスターズ(仮称)の開催 (スポーツボランティアの拡充・派遣)
長期		<ul style="list-style-type: none"> 国際機関、国際スポーツ団体、オリンピック大学等の誘致 	<ul style="list-style-type: none"> 日本発「Integrity of Sports」の世界への普及 	<ul style="list-style-type: none"> 「スポーツによる健康長寿運動」を世界に広める

グローバルビジョンの具体化に向けたアクション:文化

教育

スポーツ

文化

<p>鍵になる取り組み</p>		<p>日本文化ファンを世界に創造し、日本ブランドの認知度を高め、市場を創造</p>	<p>文化庁が日本文化の総合的な振興を図る責任を担い、関係省庁との連携の下に、世界へ文化を発信 (2016スポーツ・文化ダボス、2020年東京大会を見据えて)</p>	<p>文化力で社会課題と向き合い、課題解決先進国としての模範を提示</p>
<p>短期</p>	<p>今年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文化ファンを世界に増やし、日本ブランドの認知度を高め、市場を創造していくため、対象国・地域に応じた国家戦略を省庁横断的に構築 	<ul style="list-style-type: none"> 関係省庁との連携の下、戦略構築 クリエイティブ・シティの知見を集約する機能(国内拠点)の整備 日本遺産の枠組みを形成 	<ul style="list-style-type: none"> 文化の力で社会課題と向き合い、成果を上げている自治体の事例を収集(目標:100事例) 文化の力で社会課題と向き合うための国家戦略を打ち立てる
	<p>来年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上記戦略を踏まえ、メディア芸術・ポップカルチャー等も含めた日本文化発信等のための予算の戦略的な配分・充実 海賊版対策のための国内権利者むけ事例集・ハンドブック作成 	<ul style="list-style-type: none"> 上記戦略を踏まえた施策展開(例) 世界のクリエイティブ・シティが日本に集まる場を設定し、戦略的世界発信のためのキックオフ。 日本遺産を15件(目標)認定し、世界発信の機運を醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 成果を上げている自治体への財政支援を実施 成果を上げている自治体の事例を世界発信
<p>中期</p>	<ul style="list-style-type: none"> 関係省庁と一体となって、戦略的な日本文化の発信施策を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 全国津々浦々のクリエイティブ・シティや日本遺産が中核となり、文化プログラム実現 	<ul style="list-style-type: none"> 全国で成功事例が数多く生まれる状況となっており、五輪時に世界発信 	
<p>長期</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文化外交や創造経済において文化の力が大いに発揮されている状態 	<ul style="list-style-type: none"> これまで点在した文化都市、遺産が面やストーリーで日本中に広がっている状態 → 世界の人々を魅了 	<ul style="list-style-type: none"> 世界から多くの国内地域に視察が訪れるなど、モデルを世界発信する状況 	